

---

# BLEACH 転生者Kの物語。

矢川 智

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

B L E A C H 転生者Kの物語

### 【Zコード】

Z2610BA

### 【作者名】

矢川 智

### 【あらすじ】

この世界はつまらない。妹だって、もうじき死んでしまう。そもそも生きていることに、意味なんてあるのだろうか？少年は、そう思っていた。そんなある日、お決まりの展開、（交通事故らしいが）神さまに殺されてしまった少年。B L E A C H の世界、原作を全く知らない少年は、死神に転生する。生きがいを見つけることが、この世界の目的。

第1話

プロローグ

ここは



だ  
う

?



『気がつくと、真っ白な空間に”オレ”はいた。

「お、気がついた？」

おれいぞー、もうひとつで先送りになるといじだつたぞー

そして、”オレ”の目の前に白い服をきた27歳くらいの変人がいた。

【…だれだ？】

「んー…

ま、お前の『神様』ってことだな

何いってんだ?」マイツ。

【.....】

「...軽く傷つくな無言でござれると...」

【じゃあ死ね】

「.....」

【なに急に黙り込んでんだ】

「いや～...」

大変申しにくいんだけど...

【...せ~】

君、さつも死んじゃつたんだよね~」

「イツ、頭おかしいのか。

「いや、だから君死人。

オレ神様。」

【やっぱ死んどけ、おまえ。】

「…まあいい。

でさ、君を死なせちやつた理由なんだけど…

君、妹を助けたいって思つてたでしょ？

で、君をオレが偶然見かけてさ。

カワイソ一だから、妹の代わりに君を死なせちやつたつて訳。

後で気づいたんだけど、それってご法度だつたんだよね。

でもさー

だから、君をどーか違つ世界に転生させてあげよつひとつ。

…」今まで大丈夫?」

【当たり前だろ】

つまりここは馬鹿ども。

「…君が頭良くって助かったよ。」

【.....】

これを理解できない馬鹿が存在するのか?

いたとしたら、この自称神くらいだな。

「ま、そういうわけで”転生”してくれない?」

どこ行くかはルーレットで決めて欲しいな…」

【.....】

「……しゃべつてよー わよしこじょんー。」

【……だつたり早くしゆ】

「……わかつましたー……」

自称神がルーレットを取り出す。

「じゃ、まわすからダーツ方式でやつてよ。」

と言つてルーレットを回す。

【.....】

シユツ

ダーツの針を投げる。

「お~…… いれまたよ!」この辺に当たったねえ……

君が転生するのは、

”BLEACH”の世界にケツテー！」

【.....?】

「...もしかして、”BLEACH”知らない？」

【知らねえ】

”BLEACH”ってなんだ？

「ワオー！」

ま、それはそれでいいか。

じゃあ早速……と、その前に。

なんかつけて欲しい能力とか要望とかある？

意外にしつかりしてる自称神。

この自称神、能力なんてつくれるのか。

【……容姿、名前、身体能力とかは今までのオレ通りでいい。

【能力はどうでもいい】

はつきし言つて、能力なんてジャマになるだけだ。

その能力のおかげで面倒に巻き込まれたくないからな。

「つまんないなー…

あ、じゃあ君好きな武器とかある?」

なぜこのタイミングで”武器”というワードが出て来る?

……それはそれとして。

【……銃だ】

「よし！銃だな？

……で、……」

なこやか、パン、パン」と言つてゐる自称神。

「…………だな。

では、早速君をブリーチの世界に送りますー。」

### 【勝手に決めんな】

しかし、勝手に進める自称神。

「それでは、やむづなら~~~~~

あ、会いたいって思えればいつでも夢とかであるから。

でも、さすがに”BLEACH”的世界でオレが出現できないからな

一通り自称神が話しあると、急に”オレ”的身体が光りだした。

### 【！？】

てめえ、変なところに送つたらただじや……】

フツ

”オレ”が言いかけた言葉はどぎれた。

そうして神は後悔する。したといいでもう遅いのだが。

「なんでオレってこんななの対処しなきゃいけないんだ！？」

…まあ、原因はオレにあるんだけどさ。」

真っ白い空間には、すごく後悔した神が一人、たたずんでいた。

## 第2話 出会い

「あのクソ自称神……」

次ぎあつたらただじやおかねえ……！」

ちゃんと“自称”は忘れない。

現在、”オレ”は空中を落卜中だ。

服装をわつき見たところ、なんだかわからぬえが黒い着物（？）を着ている。

それに、背中が重いと思つたら、デカイ剣を背負つていた。

まあ、暗いからそこまで色は分からぬいが。

しかし、いくらなんでも落下時間が長い。

かれこれ3分くらいは落ちてゐるんぢやないか？

そつ思つてみると地上が見えた。

道路が真下に見える。

〃体勢が良くないと即死？

そんな事を思った”オレ”は、急遽体勢を立て直

そうとしたが、体勢へと思うのが遅すぎた。

いやな音を立てて、”オレ”は地面に落ちた。

その瞬間、”オレ”は意識を手放した。

「あ、僕がつらかった？」

「や~~~~~」のまま起きなかつた。「うう」と思つた  
~~~~~

変な帽子のオッサンが”オレ”を見ている。

「…誰だ？」

そういえば、背中にあつたはずの剣がない。

「つと、その前に。

オレは、風見<sup>カザミ</sup> 神威<sup>カダイ</sup> つづー者だ」

オレがせつぜつと、帽子のオッサンは驚いた顔をした。

「…普通、自分の正体を先に明かすもんスかね？」

「…当たり前だ。

相手の名前を聞くときはまず自分から。

それがオレン家の教えの一つだ」

「ぶつ」

「？」

「あっははははははは……！」

面白いつスね、カムイさん？」

「急に笑い出すオマエの方がおもしれえ」

「まつまつまつまつ……」

アタシは、浦原喜助つていう者つス。

どりどりよひじくへ

「ああ。よひじく

とりあえず挨拶が終わつたところで、浦原がオレに質問して來た。

「ところで…

貴方死神つスよね？

なんであんなところで倒れてたんですか？」

いきなりイタイところを突いてくる。

「…知らねえ」

「知らないって…」

少し困つているように見えるが、オレにはそんな事関係ない。

「つづーか、”シーガミ”ってなんだ？」

「え？」

「だから、シーガミってなんだよ」

「貴方、死神じゃないんスか？」

の割には斬魄刀とか持つてましたけど…」

斬魄刀ってなんだ？

「ザンパクトウ?」

「…もしかして、記憶喪失とかですか?」

「さあな。

生前のことはなにか覚えてるし、名前も分かるが?」

「…

…そうですか……」

急に黙り込む浦原。

「まあ、とつあえずジャマしたな。」

そろそろ（並ではないが）行くか。

と思つたら、またいたいところを突かれた。

「…行くあるんスか?」

「…ねえよ。

だが、あんたの所にいつまでもいるわけにもいかねえだろ?」

「…行くあてないんだしたら、ウチで働きません?」

…」じつ、『いま働きません?』って言わなかつたか?

「…は?」

「いや、行くあてないんだつたらウチ来ませんか?って言つただけ  
つスよ」

「や、と笑いながら浦原が言つた。

それが、  
”オレ”の知る由もない原作のキャラクターとの出会いだった。

第2話　出会い（後書き）

1月9日訂正・黒咲　風見　にしました。

### 第3話 黒猫（前書き）

”転生者K”前回までは。

BLEACHの世界に転生した風見神威。

転生したときは、もう既に死神だつた。（空から落下中。）

”BLEACH”を知らない神威は何の抵抗も出来ず、地面に墜落。

偶然通りかかった浦原喜助に助けられ、自己紹介とかをする。

そして、浦原に「ウチで働きませんか?」といわれた神威だつた。

以上、何か良く分からぬあらすじでした。

### 第3話 黒猫

「…ふざけんな…」

なんでオレが同じ奴に2度も恩をかけられなきゃならねえ

なんだかんだ言って、人に恩はかけるといいが、かけられるのは「めんだ。

「…じゃ一言い方を変えましょ。」

”ウチで働いてください”

「…それでいいっスよね？」

見事に穴を突いてくる浦原。

「！」

……お前、オレが『いつこのつ』を嫌いだって知つて言つてるのか？」

睨みながらオレが言つと、

「いや～～…そんな事あるわけないですよ～～」

へラへラ笑いながら浦原は答える。

「…まあいい。

それはお前の”頼み”なんだな？」

「ええ」

「…じゃあいい。

「これから世話になる」

一応少しだけ頭を下げる。

「…オレの肩に背負つてたはずの剣はどう行つた？」

「あら?

やつぱり斬魄刀知つてるんですか?

…なら話は早い、「何が話は早い、じゅ

…あんま驚かさないでくださいよ

夜一、と言つた先には、黒猫がいた。

ところが、やっぱりアイツは剣の在り処を知つてゐるのか。

「…おぬしは馬鹿だな？」

「ああ。オレでもこの猫の気配分かたせ?」

オレがそう言つと、猫と浦原は驚いた顔をした。

「…カムイさん、貴方……何者つスか…?」

「あ? 何者つて……

「ただの……」

「…」でオレは氣づく。

オレって、もう一般人じゃねえな。

転生者だーとか言つたら、ダメだし……

……………オレは何者だ？

「……………」

オレが黙つていると、浦原は、

「……言いたくないならいいっス。

ま、気長に待ちますよ」

と言つた。

しかし浦原は諦めてくれたが、夜一と呼ばれた猫は諦めそうになつた。

「……おぬし、本当に死神か…………？」

「…………ああ？だから、シーガニツてなんだよ。

……んなモン、知らねえよ」

セツヒツと、夜一はため息をつきやつと諦めてくれた。

と、唐突に浦原が言った。

「それじゃあ、もう夜ですし。

アタシ等はもう二きまよ。…夜一さん、いきまよ～？」

…今、夜だったのか。

「…ああ、分かった。

…今度ゆつくり話やつか？

カムイとやひり

「…ああ」

…セツヒツ、あのクン……

いや、カス神（自称）に会いに行くか。

オレは、もともとあつた布団にもぐり、  
あのカス神（自称）に会いに行くために寝た。

## 第4話 クソ神（自称）（前書き）

”転生者“前回までは。

ひょんなことから転生した神威。

原作キャラ（浦原と夜一）に会って、迎えた転生最初の夜。

神威は、自分を転生させた神に会いに行くことにしたのだった。

以上、よく分からぬあらすじでした。

## 第4話 クソ神（自称）

オレは、またあの真っ白な空間に来ていた。

「あ、やつと来たんですか？」

君が来ないと仕事サボ……ゴホン。

や、でもここに来たって事は何か用があるんですね?」

「」

そして、何も言わずにクソ神（自称）の頭を蹴り、

「ギヤアアツ！！

踏む。

「ブベラシ」

「…テメエ、オレは変な所に送るなと言つたが？」

……全て説明しろ」

「（命令口調！？オレ、神なのに！）

……わかりましたー…

ぶっちゃけ俺のミスです。はい」

「…………」

「スミマセーン…殺氣をぶつけないでくださいーーー！」

「……まあいい。

ところで本件なんだが…

オレに、知識をくれ。オレの無知さに困っていたといふだ。

ちなみに、なかつたら困る基礎知識だけでいい。

人物の名前とかはいらねえからな」

意外にもじつかりした相談だな、とこのとき神は思つたらしい。

「え？

ああ、いいぜ。手、だして」

黙つて右手を差し出す。

それにクソ神（自称）が右手をかざす。

と、同時に青い光が光つた。

「ん、これで良い。

朝、起きたら知識を持つてるよ」

「ああ。分かった」

さて、そろそろいいか。

と思つていたら、足元のクソ神（自称）が話しかけてきた。

「…あの…

俺の名前、言つてもイイデスカ…？（そしてそろそろ足をどけて  
欲しい）」

名前？

神に名前なんてあるのか。

「…………いいだらう」

「ありがとうございます…

俺は、”鈴<sup>リンヤ</sup>弥”って言います。

これからは名前で呼んでくれ

「…鈴弥、か。分かつた」

足はまだ鈴弥の頭の上だ。

少し力を入れると『ギャツ』というから爽快だ。

「… ジだ……」

「あ？なんか言つたか？」

「イエーーー何も言つてませんーーー」

「… セウカ」

と言いながら踏み潰す力を強くする。

「… そりいえば、テメエ… オレに何かしらの能力をつけただろ？」

ビクッと身体を震わせる鈴弥。

「… はい…… つけました…」

「（やつぱりか……）どんな能力をつけた？」

「」で、オレは頭から足をびく。

「えー……

確かに、身体能力、靈圧などのコモリスターを解除。

これによって、そういったものは鍛えるだけ強くなる。

……いわゆる、上げることが出来る能力の上限がなくなる、ということだ

「…………」

「あはは……」

なにが『あはは』だ。

「……いつ、そんなものをつけたと言つた？」

「すみませんでしたああああ……。」

すかさず鈴弥は土下座をする。

「こつまでもやつしてみ

「はー……

あ、ちなみに朝の世界で今、朝の6・30だぜ？」

もつ朝なのか。

「早いな……」

「もつも、いつも時間が流れの時間の早さが違う

もつだったか。

「じゅあ、いつもオレは寝てます。

じゅあな、鈴弥

「あ、ああ。またな

十人座しながら話したのを、すいへ面白かったとだけ聞いておいた。

## 第5話 神からの手紙（前書き）

”転生者K”前回までは。

訳わかんないが転生した風見 神威。

原作キャラに拾われて、その日の夜夢の中で神にあった。  
その時起きたら基本的な原作知識を入れてもうつようにした神威だった。

以上、訳の分からぬあらすじでした。

## 第5話 神からの手紙

「……本当に……30だとは…………」

さすが……神（？）……なのかな？

起き上がるとい、布団の上にメモが置いてあった。

浦原からか？

手紙の内容は、いつもだった。

『』この手紙を読んでるって事は、もう起きたんだな。

せつめー個書こられてたことがあつても。

一応書いておく。

今、原作5ヶ月前だ。

で、今年、空座第一高校に受験すると面白いぜ。

主人公は、オレンジ…とだけ書いておく。

要らない情報かも知れないが、我慢してくれ。

あ、あと修業とかしたほうがいいぜ。

ちなみに浦原喜助に頼めば多分場所を用意してくれる。

勉強は大丈夫だろ？

ちなみに、この手紙は読み終わったら焼かれる。

と、同時に知識を入れるからな。

じゃあ、また何かあつたらいつも連絡するからな。

検討を祈る。

b ゆ鈴弥

……本当にいろいろ情報まで書いていやがる……

しづくべボーッとしてゐる、浦原が来た。

「おはようござまく～カムイさん?」

つて、何か疲れています?」

「別に……」

「やつづか?」

朝<sup>アサヒ</sup>はんできたんでお呼びしましたー

着いてきてください」

つづーか、なんでオレはずつとの格好なんだ?

ま、知識が入ったからそれなりに分かるが……

「...だれだよ?」トイツ

「え……つと……」

「ム？ この方が昨日おっしゃっていた神威さん……ですか？ 店長」

上から順に、ガキ、ガキ（女）、オッサンだ。

「…………」

「……は、無言で通してみるか。

……である範囲で。

「ああ、この人はカムイさんって書いて、見ての通り死神つス。

でも、記憶は無いっぽいっスよ？」

「……昨日、基本の知識だけは思い出せたがな

めんどくせえのは嫌だしな。

「あれ？ そうなんスか？」

じゃー良かつた。いろいろ説明すんの面倒なんスよ

わいわと並つな。」 こいつは…

「右から雨、ジン太、テッサイ。

よろしくしてやってください」

雨、ジン太、テッサイ……

「…雨、ジン太、テッサイ、か。

まああまりよろしくするつもりはねえが…

世話になる。

で、浦原

「? なんですか？」

第5話 神からの手紙（後書き）

どんなん方からも感想待つてます。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2610ba/>

BLEACH 転生者Kの物語。

2012年1月14日22時47分発行